

総務部長（竹内正隆君）

辰巳町火災の検証結果についてお答えをいたします。

初めに、今回の火災で犠牲になられた方、御家族の方々に深くお悔みを申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、この火災については、現場で指揮をとった消防本部と消火活動について検証を行っておりますので、その結果をもとにお答えをいたします。

本火災の消火活動状況につきましては、消防本部 10 隊及び白山市北消防団 9 分団が出動し、その水利は出火建物周辺の消火栓 6 基、防火水槽 1 基及び近隣の中村用水で、先着消防隊が現場に近いものから順に使用し、消火に当たっております。

付近には未使用の消火栓も事実ありました。その一部の消火栓が使用されなかった、その理由につきましては、後から来た後着消防隊が現場に到着するまでに指揮隊と活動状況の確認を行い、周辺の混雑、混乱を避けながら、より確実な水量を確保するため消火栓を利用せずに、やや距離はありましたが十分な水量が確保できる中村用水を使用したものであります。これにより消火活動における水量は十分確保できたものであります。

次に、鎮火までに時間を要した要因についてお答えをいたします。

まず、未明の出火であったため、出火から通報されるまでかなり時間が経過しており、消防隊到着時には既に大きく延焼していたことが挙げられます。また、出火建物内に逃げおくれた方がいたことから、消火並びに救助活動を同時に行う必要がありました。さらに、延焼の拡大を防止するため出火建物の屋根裏や隣接建物にも放水を行っております。古い建物で通路が狭い上に延焼速度が速く、消火活動中に建物屋根瓦などの落下、あるいは壁体の倒壊などもあり、消火困難な状況であったことも鎮火に時間を要した要因になったわけでございます。

検証の結果については以上であります。